

2019年度 事業報告

1. 運営に関する会合

(1) 第30回定時総会

2019年5月17日(金) 中央電気倶楽部にて開催

第1号議案	2018年度事業報告
第2号議案	2018年度収支決算報告
第3号議案	役員を選任
第4号議案	2019年度事業計画案
第5号議案	2019年度収支予算案

(2) 役員会 4/12, 7/12, 10/11, 1/24 の4回, 企画運営会議1回, 関西支部賞選考委員会1回等を開催し, 事業遂行上の必要事項について審議, 決定した。

2. 調査研究委員会

(1) 高圧受電設備のBCP対策に関する調査・研究委員会 [委託・終了]

本調査研究では, はじめに「波及事故を発生させない」「系統電力停電時の影響を小さくする」という2つの目標を立て, 高圧受変電設備で行うことが可能なBCP対策について, 調査研究を行うこととした。

2カ年の委員会活動では, 初年度は, 主に調査研究内容についての各委員間での意見徴収や各種文献調査, 各委員に関連する調査先への実態調査アンケートを行った。また次年度の研究活動では, これまでの調査研究内容の深度化と, 更なるアンケート先の選出・追加を行い, アンケート回答の分析や考察を行うと共に, これまで行ってきた文献調査やアンケートの回答内容を参考に, 高圧受変電設備のBCP対策検討に活用できるチェックシートの作成を行った。

調査対象である“高圧受電設備のBCP対策”となると対象がかなり限定的となってしまうため, 本委員会では, 主として受変電設備に関連する波及事故や重大事故を起こす可能性がある事項と, 建物における一般的なBCP対策についても調査および整理を行ない, 報告書にまとめた。

委員長： 米津大吾

副委員長： 見市知昭

主 査： 川合満男

委 員： 森下雅也, 石田 豊, 藤田直丈, 高田裕子, 岡野康裕, 川田隆之,
大江祐一, 矢野 剛, 仲宗根訓, 山崎英喜, 丸尾竜一, 伴海 誠,
原 大輔, 杉田 智, 大石美智男, 大西弘造, 村田崇浩

アドバイザー： 益尾和彦, 富田有修, 岸 淳一

事務局： 尾崎 恵

期 間： 2019.4 ～ 2020.3

開 催： 委員会6回, WG4回

(2) 電気設備基礎技術の継承委員会 [自主・継続]

本委員会は2002年より電気設備に関する基礎技術について、「継承すべき技術とは」という観点からさまざまなテーマに取り組み、年1回の講習会を通じ発信してきた。2019年度はシーケンス制御をテーマに、「あなた、読めます？シーケンス制御」という表題で2020年2月に講習会を開催した。本年度も引き続き、基礎技術からテーマを設定し取り組んでいきたい。

以前にニーズとして挙げた、新任の営業マンを対象とした「(仮称)電気設備とその関連設備についての基礎知識」というテーマでの研修会開催についても検討を進めたい。

テーマの策定は、毎年当委員会で議論されるところではあるが、委員の積極的な議論により若年技術者のために伝えるべきテーマを見つけて取り組みたい。講習会開催時に過去のテーマのリストも参考に配付したうえで、アンケートを実施しニーズの発掘にも努めている。

委員長： 井手洋一
主 査： 塩田博明
委 員： 佐伯惟大， 関本芳孝， 伊佐 弘， 矢野 剛， 近藤直人， 樋口要一，
益尾和彦， 桑村和男， 井上善和， 伊藤昌明， 中村史朗， 原 武久
オブザーバ： 間瀬剛志， 松田純一， 藤原 隆， 坂本浩志
幹 事： 小倉良友， 山口 博
期 間： 2019.4 ～ 2020.3
開 催： 委員会 10 回

(3) フォーラム関西 [自主・継続]

支部活動の中で特に若手電気設備技術者を対象とした勉強会，交流会を目的として2003年4月に設置し，数々の技術テーマによる勉強会や，公開研修会，見学会を行っている。

2019年度は，8月に講演会「電気関連法規・規程など」を開催し，日頃疑問に思っている電気関連法規について活発な意見交換が行われた。更に，10月の講演会「建築電気設備に関する仕事―学生と企業の交流会―」では，フォーラム関西の委員が中心となり講師を勤めるとともに，講演会後の交流会に参加し，学生との活発な交流を行った。

今後も，プレゼンテーションや情報活用能力向上のスキルアップ活動を加えて，引き続き開催していく予定である。

委員長： 伊東 剛
幹事委員： 丸尾彰秀， 森田祐志， 亀山一久
運営委員： 種田 裕， 山崎英喜， 相原竜介， 北村 進， 大江祐一， 松本康裕
メンバー： 藤田直丈， 牛之浜哲也， 小林賢司， 本郷紀沖， 瀬川 淳， 米津大吾，
辻村幸一郎， 矢野 剛， 原 達也， 川合満男， 戸松孝治， 本田準士，
石田光平， 北川大輔
幹 事： 小倉良友， 尾崎 恵
期 間： 2019.4 ～ 2020.3
開 催： 講演会 2 回

(4) 経済性と環境を考慮した電線ケーブルの最適導体サイズに関する

調査研究委員会〔委託・継続〕

2019年度は「計画段階における ECSO 導入効果の‘見える化’（その1）」のアルゴリズムを作成し、2020年度は新しい「自動計算ソフト」を完成させ、日本電線工業会ホームページへ掲載（無償）する予定である。

また「トレース段階における ECSO 導入効果の‘見える化’（その2）」のテーマについては、ECSO 導入後に省エネ効果(kWh)と CO₂削減効果(CO₂-kg)とピーク電力低減効果(kW)の実績をトレースするための「モニタリングシステム（効果の見える化）」の開発が必要であり、対象となる全回路の根元の箇所に電力量計を1年間セットして、年間総消費電力量 W (kWh)を計測する。計測値 W に前述の「自動計算ソフト」で求めた省エネ率(%)を乗ずれば、年間省エネ量(kWh)が求まり、さらに CO₂排出係数（例えば、0.55 kg/kWh)を乗ずれば、年間 CO₂削減量(CO₂-トン)が求まる。さらに、期間内(1年間)のピーク電力(夏場)も計測して、計算で求めたピークカット率(%)を乗ずれば、ピークカット電力(kW)が求まる。こうして求めた3つの効果をモニター表示（見える化）する。新規テーマの「ビル・工場内配線への ECSO 適用効果の‘見える化’」をスタートさせた。企業においては、設備投資実施後にその効果をトレースすることになる。そのため、ECSO 適用後において、省エネ効果(kWh)、CO₂削減効果(CO₂-kg)及びピーク電力低減効果(kW)を確認するための「モニタリングシステム（効果の見える化）」の開発が必須であり、その開発は2019～2021年(3年間)かけて、別途に「共同研究」の新規テーマとして進める予定である。

委員長： 益尾和彦

副委員長： 原 武久，北里敬輔

主 査： 矢野 剛

委 員： 相原竜介，大澤勝志，北村 進，久米伸一，酒田尚志，瀬川 淳，
谷本顕一郎，松江 正，畑 義幸，深尾和正，本郷紀沖，山崎英喜，
米津大吾，亀山一久，松本康裕，東川善文

事務局： 山口 博

期 間： 2019.4 ～ 2020.3

開 催： 委員会 2 回，幹事会 1 回

3. 講演会 開催 3 回

(1) 記念講演会

「新4K8K衛星放送の魅力」

日時・場所： 2019年5月17日 中央電気倶楽部

講 師： 伊東良展氏 [(一社)放送サービス高度化推進協会]

参 加 者： 56名

(2) 一般講演会

「建築電気設備に関する仕事－学生と企業の交流会－」

日時・場所： 2019年10月4日 (株)大林組プレゼンテーションルーム

講 師： 川田隆之氏 [栗原工業(株)]，相原竜介氏 [(株)日建設計]，
丸尾彰秀氏 [(株)大林組]，岩田三千子氏 [摂南大学]，
山崎英喜氏 [パナソニックLSエンジニアリング(株)]

参 加 者： 48名

「第5世代移動通信システム“5G”」

日時・場所： 2020年2月7日 中央電気倶楽部
講師： 佐々木篤志氏 [(株)NTTドコモ],
大木順平氏 [サン電子(株)]
参加者： 50名

4. 講習会 開催1回

(1) テーマ「ノイズって何？」

日時・場所： 2019年4月24日 中央電気倶楽部
講師： 井上善和氏 [(一財)関西電気保安協会]
大阿久学氏 [(株)電研精機研究所]
参加者： 77名

(2) テーマ「あなた、読めます？～シーケンス制御」

日時・場所： 2020年2月26日 中央電気倶楽部
講師： 塩田博明氏 [技術継承委員会主査],
坂本浩志氏 [日新電機(株)],
間瀬剛志氏 [セイリツ工業(株)]
参加者： 66名

5. 見学会 開催2回

(1) 「日新アカデミー研修センター」

日時： 2019年7月24日
参加者： 31名

(2) 「(株)コベルコパワー神戸 神戸発電所&関西電力(株)姫路第二発電所」

日時： 2019年12月6日
参加者： 24名

6. その他

(1) 電気関係学会関西連合大会主催(4学会)

電気設備学会関西支部は、電気学会、電子情報通信学会および映像情報メディア学会の各関西支部と共同(4学会)で、2019年11月30日、12月1日に大阪市立大学杉本キャンパスにおいて電気関係学会関西連合大会を主催した。

(2) 本部主催講習会への協力

本部が主催する建築設備士(第一次、第二次)受験準備講習会では、第一次講習会を2019年4月20、21日に、また第二次講習会を2019年7月27日にマイドームおおさかでそれぞれ開催に協力した。

(3) (一社)電気設備学会 関西支部ホームページの運営

関西支部独自のホームページを運用しており、継続して充実を図った。